



あなたと

2004年
10月 1日発行

VOL.15

性別や年齢の違いを超えて平等にともに手を携える関係でありたいから

わたし



共に働く喜び

福生でただ一軒となった養蚕農家、町田幸子さんを訪ねました

「蚕が大好きなんです。」

「と言う幸子さんが、盛彰さんと結婚したのは昭和二十七年。」

羽村の養蚕農家で育った幸子さんにとって、結婚後も養蚕に携わることは、当たり前のことだったと言います。畑仕事の他、養蚕作業も、全く男女の差はなく共同で行ってきました。

「当時、夫の両親、そして夫の妹と私たちの五人で養蚕作業をしました。一度も苦に思ったことはありませんでしたよ。」と、笑顔で話してくれました。

最初は数ミリしかない蚕が、桑の葉を食べ、日に日に大きく成長。種虫は一箱十グラムほどですが、それがおよそ二万五千個ほどの蚕になっていきます。蚕の成長を楽しみに作業してきたと言います。

「収穫が上がれば二人で喜ぶ。それが一緒に働く上での何よりの喜び。夫は思いやりのある優しい人。共同で作業することは私達に



盛彰さん、幸子さん

とってごく自然なことでした。大変だと思ったことは一度もありませんね。」と、夫に目をやる幸子さん。

「そうだな。自然な事だった」と相槌を打つ盛彰さん。

桑の枝を切る力のある作業も含め、ほとんど全ての作業を夫と共にやってきたと語る幸子さんの顔は、誇らしく輝いて見えました。

「作業に追われる繁忙期には夫の母が家事・育児など多くの事を助けてくれました。農家育ちの母だからその理解と協力だったと思います。それも大きな励みでした。」と語るなかに、家族全体の協力も見えたように思えます。

これまで、蚕を慈しんで育て、夫と共に働き収穫の喜びを共にしてきた確かな手ごたえを、私たちにイキイキと伝えてくれました。

毎年三月十日頃に立川で行われる配蚕計画が今年も行われず約八六年間続けてきた養蚕をあきらめることになりました。

すでに多くの養蚕農家が廃業してきた福生で、伝統的産業を残したいとの思いで続けてきた町田夫妻にとって今年、養蚕の歴史の大きな節目であることを実感しているようです。

今では、東村山市に四軒、八王子市（元八王子）に八軒、町田市に六軒だけとなった養蚕農家の現実があります。



福生市青少年海外派遣生に聞きました



☹️ トイレのドアの下がすごい開いている。隙間もある。小学校が平屋建て！日本が4階建てとかなのに…

☹️ 周りの家と、だいたい同じような色をしていて一体化している。親しみやすそうだった。

☹️ 家が一軒一軒大きかった。

☹️ トイレのマークがどっちも黒とか白とかでわかりにくく、女子トイレに入りそうになった。

訪問先の街の施設や設備を見て、福生市とは違うなと思ったところがありましたか

☹️ ホームステイした家も周りの家も二階建てでなく、地下に部屋があった。

☹️ 教会は車イスでも入れる。ドアを開けるのに車イス用の自動ボタンがあった。大きい、広い。みんなが使いやすいようになっている。

☹️ ユタは、原生的な自然が多く、道が広くても全然自然破壊や公害を感じなかった。

☹️ 後ろから人が来てたら（結構後ろにいても）扉を開けて待つという習慣はすごい。



ウィルソン小学校訪問

ホームステイ先の家庭では、母親だけが家事や育児を担うのではなく、家族が協力している様子がうかがえました。また、自宅で父親が家事をしている姿を目にする機会が少ないのか、そのことが印象に残った派遣生も多く見られました。街の施設も、バリアフリー化が進み、障がいを持つ人も共に生きていきやすい環境を作り上げているとともに、それを支える人々の意識も大事であることを感じます。後から来る人のためにドアを押さえて待つ、ということ一つをとっても、心のゆとりと、人への思いやりを感じます。ぜひ取り入れていきたい行動ですね。



ケネコット・ビンガム銅鉱山

アメリカでの14日間にわたる研修を終えて、無事帰国した12名の派遣生。英語の研修や施設見学、そして各家庭に一人ひとりで泊まるユタ州でのホームステイ体験。派遣生が見た、現地での男女共同参画はどのようなものだったのでしょうか。

☹️ レディファースト。大人だけでなく子供でもドアを開けといてくれる子がいた。

☹️ 男女をあまり意識していなかった。

☹️ 男子（5歳くらい）が、教会に行った時、私の後ろを歩いていたのに、ドアの近くになったら先まわりをしてドアを開けてくれたこと。ご飯のとき男の人がよそってくれた。

☹️ 差別が少ない。男性が女性をいたわる（？）って感じはあったが、差別はない気がする。

☹️ 小さい男子でも、私が手伝おうとしたら自分でやると言っていた。

☹️ Lady firstが自然に行われていた。

☹️ 会ったら「Hi!!」って言ったり、ハグしたりする。近所の人と一っつも仲良し!! バーベキュー大会みたいなのをした。

☹️ ご飯の準備と後片付けをお父さんや子供たちが手伝っていた。子供と一緒に遊んであげていたのはお父さんのほうが多かった。

☹️ 子供に夜お母さんがキスをしていた。

☹️ 毎朝、出勤前のハグ（抱擁）とキスをする。（複数回答あり）

☹️ お父さんとお母さんがよく2人で話していた。

ホストファミリーとの生活で、日本の家庭ではあまりこういうことはしないだろうなという光景がありましたか

☹️ 写真を撮ろうとしたら、肩を組んでくれた。お父さんがちゃんとお母さんの手伝いをしていた。休みの日に、お父さんがポテトを焼いていてびっくりした!!

☹️ 買い物のとき、お父さんとお母さんは必ず手をつないでいる。お父さんがご飯を作る時も多い。

☹️ 食べる時日本では左手を添えないと「行儀が悪い」と言われるけどアメリカの人は左手を机（ひざの上）に置く。

☹️ ホストファミリーの父と母はよく肩を抱いていた…



レッドキャニオン (ユタ州)

海外派遣中に、女性と男性の関わり方などが日本とは違うなあと印象に残ったことはありましたか

福生市の「女性悩みごと相談窓口」は平成15年5月より、羽村市との共同で開設されました。この1年間にさまざまな問題を抱えて、多くの女性が相談されました。両市共同という新しいシステムは、相談される方の立場にたったものでした。「相談したいけど、あまり近くでは行きにくい」「知り合いが多くて…」と戸惑う方には足を運びやすくなります。

さて、女性の抱える問題にはどんなものがあるのでしょうか。特に、地域における相談で最も多い悩みが「夫婦関係」です。福生市でも延総数の70%近い相談数が夫婦問題でした。状況の厳しい夫婦間暴力、例えば、殴る蹴るといった肉体的なもの、人格をけなす精神的なもの、生活費を入れないといった経済的な暴力など、緊急性の高いものもありました。そういった方の訴えが増えたのは、今まで夫婦・パートナー間のけんかで片付けられてしまっ

相談は町向きで生きる方の悲れ

女性悩みごと相談窓口から

ていたことが「これは暴力なのだ」「人権侵害だ」といった社会的認識が広まったことがとても大きいと考えられます。また、夫の飲酒、借金、女性関係といった問題もあり、離婚を考えている相談も見られます。夫婦の危機をどう乗り越えていくのか、あるいは新しい人生の決断をしていくのか、岐路に立つわけです。また、介護問題、子育て、女であるがゆえに押し付けられ

る女性共通の問題もあります。私たちは、悩みをひとりで抱えていても、なかなか解決の方向を見いだすことは難しい場合が多々あります。自分自身のパワーとまわりからの援助が必要です。自分の心身を看ながら、時間をかけて向かう必要もあります。こういう岐路に相談室に足を運ぶことができるのは、ご本人は自覚できないかもしれませんが、せんが、勇気がある行為であり、

前向きに生きる力の表れでもあります。相談室では、相談された方に何が必要なのかを共に考え、情報の提供、気持ちの整理のサポート、捉え方の検討などを大事にしています。20代〜80代までの幅広い年代層の方が相談されています。これからも、微力ながら、女性が抱える様々な問題に、その地域で共に考える場、本音で語れる場を創っていきたくと考えています。

(心理カウンセラー)

女性悩みごと相談

福生市・羽村市在住の女性の方でしたら、どちらの市へも申込みができます。

申込み

相談日の2週間前から電話で福生市市民相談係
551・1511(代表)
羽村市市民相談係
555・1111(代表)
※詳しくはお問合せください。

あなたとわたし vol.15
2004年10月1日 発行
発行：福生市生活環境部
協働推進課

福生市のホームページ
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

市民編集委員 (五十音順)
秋山 典子
寺崎 敏枝
林 美幸



編集後記
本誌「あなたとわたし」は、市民がつくる市民のための男女共同参画情報誌です。多くの市民の方々と考えていきたいと思っています。ご感想をはじめ、今後特集で取り上げてほしいテーマなどご意見・ご要望をお聞かせください。
問合せ 福生市生活環境部協働推進課
〒197-18501
東京都福生市本町5
TEL042(551)1511(代表)



さんかくさん



R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

お知らせ ふっさ 女と男のフォーラム

— 仲良くしようよ、男と女(仮) —
講演 木村 治美 氏

12月5日(日)午後2時
福生市市民会館小ホール
問合せ 各公民館
本館 552-1711
松林会館 552-3624
白梅分館 553-3454